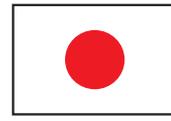


見て食べておいしさ実感



台湾りんごトップセールス



新光三越天母店でのオープニングイベントであいさつをする福島市長

1月14日から18日まで、福島市長はじめりんご生産者らが台湾を訪れ、つがる市産りんごの販売推進キャンペーンを行いました。キャンペーンは、市産りんごを取り扱う台湾商社の主催で昨年12月から始まり、福島市長のトップセールスはそのメイン行事として行われました。

福島市長ほか山本清秋議長、天坂昭市経済常任委員長、つがるにしきた農協の三上純一専務、青森アップルジューウスの葛西務社長、生産者、ミスりんごら計31人が、台北市、新竹市、台南市の新光三越4店で消費宣伝会を行い、市産りんごの安全性とおいしさを消費者に直接PRしました。



農協職員、つがるちゃん、ミスりんごが店内で試食宣伝



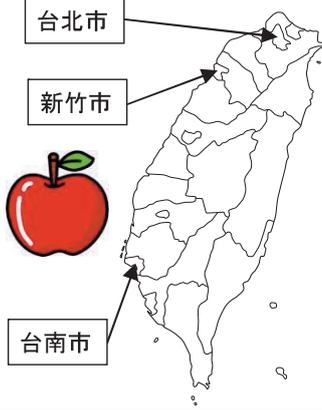
一行は、昨年12月から設けられていた市産りんご売り場がある同店地下に移動。福島市長、

津軽三味線の演奏がオープニングを飾り、福島市長がステージ上で「生産者が丹精込めて作った農産物を台湾の皆様へ届けたいという思いから訪問させていただきました。青森県つがる市産のりんごを味わってください」とあいさつ。続いて、つがるちゃんがステージに上がり、つがるブランド農産物が一つ一つ紹介されました。つがるちゃんとのじゃんけんゲームの勝者と会場を訪れた先着50人に市産「ふじ」がプレゼントされると、受け取った人たちは大喜び。台湾では、青森りんごは高級果実として高い人気を誇っています。

1月15日、青森の春先のような気候の中、台北市の新光三越天母店の屋外ステージで、つがる市のりんご販売推進イベントがスタートしました。



キャンペーン実施場所



津軽三味線を披露する(左から) 三上智未さん(豊富町)と片山勝春さん(稲垣町)



子どもから大人までが参加して大いに盛り上ったつがるちゃんとのじゃんけんゲーム



福島市長、山本議長らが市産りんごのおいしさをPR



笑顔でりんごを勧める農協職員



台湾でもつがるちゃんは大人気。写真撮影に大忙し



りんご販売コーナー。6個入りりが599円(約1500円)



春節(旧正月)前の時期で、贈答用や装飾用に赤いりんごが人気。試食後、じっくり確かめながら買い求めるお客さんたち

ミスりんごらがつがる市のりんごをPR。農協職員が野良着姿でカットりんごの試食宣伝を行うと、買い物客は、みずみずしいりんごを味わい「好吃(おいしい)」と笑顔を見せていました。言葉は通じなくても、生産者の顔を見て、りんごを食べて、そのおいしさと安全性を実感し、一つ一つ確かめながら買い求めていました。

同日夕方からは台北市信義店、16日は新竹店、17日は台南店で同様のキャンペーンを行い、各地でつがる市りんごのおいしさをPR、好評を博していました。

新光三越の中邨雅之副社長は「大々的に開催してくれてありがたい」。キャンペーンを主催した三商朝日の陳光弘社長も「大成功。今後も長期的に販売推進をしていきたい」と評価。

福島市長は「高品質なつがる市のりんごの安全性とおいしさを消費者に確認してもらうことができたと思う。旧正月前の時期でもあり、売れ行きは良かった。今後も市産りんごの安定供給、販路拡大に向けた取り組みを継続して実施していきたい」とキャンペーンを振り返りました。